

表1 普及見込み地帯の試験成績（2016～2020年、土壤病害発生事例を除く）

地帯区分	系統名 または 品種名	試験箇所数	開 花 期 (月日)	成 熟 期 (月日)	成 熟 期 差 (日)	倒 伏 程 度	主 茎 長 (cm)	主 茎 節 数 (節)	着 莢 数 (莢/株)	子 実 重 (kg/10a)	子 実 重 対 比 (%)	百 粒 重 (g)	規 格 内 率 (%)	品 質 (等級)
Ⅱ 平均	十育170号	20	7.28	9.19	0	1.3	67	14.1	45	350	110	14.5	98.2	3上
	きたのおとめ	20	7.29	9.19	0	2.2	60	13.8	46	318	100	14.3	98.8	3上
	十育170号	18	7.28	9.20	1	1.2	67	14.3	45	345	106	14.6	98.0	3上
	エリモ167	18	7.28	9.19	0	1.9	60	13.3	45	326	100	14.9	99.1	3上
Ⅲ、Ⅳ 平均	十育170号	10	7.26	9.14	0	1.1	61	14.4	46	307	100	13.6	98.0	3上
	きたのおとめ	10	7.26	9.14	0	1.4	61	14.1	49	308	100	13.3	99.4	3上
	十育170号	17	7.28	9.16	0	1.0	58	13.6	43	304	104	13.7	97.5	3上
	エリモ167	17	7.29	9.16	0	1.4	52	13.1	44	292	100	13.7	99.0	2下
Ⅱ～Ⅳ 平均	十育170号	30	7.28	9.17	0	1.2	65	14.2	46	336	107	14.2	98.1	3上
	きたのおとめ	30	7.28	9.17	0	1.9	60	13.9	47	314	100	14.0	99.0	3上
	十育170号	35	7.28	9.18	1	1.1	63	13.9	44	325	105	14.1	97.8	3上
	エリモ167	35	7.28	9.17	0	1.6	56	13.2	44	310	100	14.3	99.0	2下

- 注) 1. 地帯区分は道産豆類地帯別栽培指針（H6北海道農政部）による。Ⅱ：早・中生種栽培地帯、Ⅲ：中生種栽培地帯、Ⅳ：中・晩生種栽培地帯。
 2. 成熟期差及び子実重対比は「十育170号」と各対照品種との比較。
 3. 倒伏程度は、観察により0：無、0.5：微、1：少、2：中、3：多、4：甚で評価。
 4. 品質は農産物規格規定あるいはそれに準ずる検査等級。
 5. 規格内率は、流通上の普通小豆規格である4.5mm 篩上の整粒重割合。

表2 その他の特性

系統名 または 品種名	子実の形状		障害・土壌病害抵抗性*						
	子実	子実	低	落葉病		茎疫病			萎 凋 病
	の	の		レース		レース			
	長さ/幅	地色	温	1	2	1	3	4	
十育 170 号	やや大	赤	中	R	R	R	R	R	R
きたのおとめ	やや小	赤	中	R	S	S	S	S	R
エリモ 167	中	赤	中	R	S	S	S	S	R

- 注) 1. 農林水産植物種類別審査基準（アズキ種、2017年3月）による。育成地における観察・調査および特性検定試験の成績に基づいて分類した。ただし、*は同基準に含まれていない特性である。
 2. 低温抵抗性は開花期頃の低温による着莢障害に対する抵抗性である。
 3. 土壤病害抵抗性は、R：抵抗性、S：感受性（抵抗性をもたない）を示す。

表3 「十育170号」の製品試作試験における評価

製品名	生産年・生産地	業者名	総合評価	コメント
つぶあん	2018 中央農試	A社	3	
	2018 中央農試	B社	3	味・風味はやや良いが、皮が硬い。
	2019 剣淵町	C社	3	
こしあん	2019 剣淵町	D社	3	紫がきれい。香り・風味に欠ける。

- 注) 評価は、同産地の「きたのおとめ」と比べ、〔5〕（優る）～〔3〕（並）～〔1〕（劣る）の5段階。

この成績の一部は、イノベーション創出強化研究推進事業の助成を受けて実施した。

詳しい内容については、次にお問い合わせください。
 道総研十勝農業試験場 豆類畑作グループ
 電話（0155）62-2431 E-mail：tokachi-agri@hro.or.jp



図. 「十育170号」の普及見込み地帯

- ：早・中生種栽培地帯（Ⅱ）
 ■：中生種、中・晩生種栽培地帯（Ⅲ、Ⅳ）